

■各国の普及状況

カンボジア編

世界遺産で有名なアンコールワットのあるカンボジア、この国にも、EMと自然農法の普及が自由クメール協会という現地NGOを中心として2004年から始まりました。自由クメール協会は、創設者がタイ国サラブリ救世自然農法センターにおいて研修を受講し、自然農法とEM技術の有益性・実用性を実感した後、貧困に苦しむ農家や人々を支援するための職業訓練を目的に2004年に設立した団体です。主な活動として、研修会、ラジオ、テレビ等のメディアを使った自然農法とEM技術の情報提供、モデル圃場の建設等を行っています。同協会主催の研修会には、すでに、4000人（2006年3月現在）以上が参加しています。

同協会の活動に感銘を受けた寺院が研修施設増築に必要な建築資材（セメント、砂等）を支援しています。また、2005年9月には、タイ国サラブリ救世自然農法研修センターにおいてカンボジア人対象研修会がAPNAN主催により開催され、40名が参加しました。

プノンペン市のあるマンゴー栽培農家では、EMとボカシを使い始め、10年間収穫ができなかったマンゴー農場で初めて収穫ができたという報告を受けています。

本年3月8日には、その活動がカンボジア政府より認められ、同協会のソワリー代表は、女性省から表彰を受けました。

▼自由クメール協会が開催した研修会



▲10年目に初めて実をつけたマンゴー（プノンペン）



自由クメール協会開催研修会参加者人数（2004～2005年）

